



Flash News

三重大学

第48号

目次

- 三重銀行・三重銀総研との包括協定調印式
- 文部科学省・結城事務次官が三重大学を視察
- 科学研究費補助金の内定について
- 「学長と学生との懇談会」
- 人文学部と三重県立熊野古道センターとの相互連携協力協定調印式
- 「ISO14001セミナー」開催

- 石井投手が小児病棟に激励にやって来た！！
- 「津市げんき大学—三重大学分校」開校記念シンポジウム開催
- 第九回全国歴史の道会議・三重県大会
- 市民公開講座「日常生活で普通に出会う脳・神経系の病気」が開催される
- 大評判！学生手作り純米吟醸酒

お知らせ&ご報告

- 国際交流センターから—学長表敬訪問—

三重銀行・三重銀総研との包括協定調印式

5月28日、三翠会館において、本学は三重銀行と三重銀総研との間で、産学連携に関する包括協定の調印式を執り行いました。調印式には、豊田学長、井上三重銀行取締役頭取、原 三重銀総研取締役社長をはじめ関係者12名が出席しました。この包括協定は、大学・地銀・シンクタンクが、それぞれの強みを活かして連携し、地域経済や地域政策に貢献することが目的です。三重銀行グループの持つ幅広いネットワークを活かし、本学の持つ知的財産などの研究成果を、ベンチャー企業の育成や地域企業の発展などのために活用することを目指します。



三重銀行 井上取締役頭取 豊田学長 三重銀総研 原 取締役社長

文部科学省・結城事務次官が三重大学を視察



結城事務次官

SVBLにおいて

5月22日、文部科学省の結城事務次官が本学を来学し、豊田学長らとの懇談や学内を視察されました。学長・各理事との懇談では、豊田学長による「地方大学の存在意義～三重大学の地域連携を例にとって～」および「大学病院の経営の問題点」などについての説明の後、活発な意見交換が行われました。学内視察では、サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (SVBL) を訪れ、武田工学研究科長らによる「風力発電」や「次世代ディスプレイ用新機能素材とその応用機器の創設に関する研究」についての説明を受けられました。続いて、医学部附属病院を訪れ、内田附属病院長らによる「先端医療」や「再開発計画」についての説明を受けた後、中央検査部で新臨床検査システム、さらに中央放射線部でポジトロンCTなどを興味深げに見学されました。

科学研究費補助金の内定について

4月1日・10日、平成19年度科学研究費補助金(科研費)が内定しました。本学の内定件数は243件、採択金額は575,500千円(直接経費)で、その内新規採択件数は92件(昨年度117件)でした。全体件数では、前年度に比べると6件、金額で9,700千円増加しました。最近の科研費は、若手研究者のための取組みや女性の職場復帰支援など、多様な形で展開しています。科研費獲得を目指すには、質の高い研究課題の構築努力はもちろんですが、獲得の第一歩は「申請」です。本学の申請数は採択件数につながりますので、積極的に申請してください。

「学長と学生との懇談会」

5月15日、総合研究棟Ⅱ第2会議室において、標記懇談会が開催されました。この懇談会は、各学部の1～2年生の学生が、学長ならびに教育担当副学長を囲んで、「教育問題」「学生生活」等について直接話し合うものです。今回は「カリキュラムの問題」や「学生による授業評価の利用方法」などの活発な意見が交換され、有意義な懇談会を実施することが出来ました。なお、引き続き、6月14日には3～4年生、7月12日には大学院生を対象に開催する予定です。



人文学部と三重県立熊野古道センターとの相互連携協力協定調印式

4月26日、三重県立熊野古道センターにおいて、人文学部と三重県立熊野古道センター（特定非営利法人熊野古道自然・歴史・文化ネットワーク）との相互連携協力協定の調印式を行いました。今後、三重県立熊野古道センター内に、人文学部「伊勢湾・熊野地域研究センター」分室（分室長：塚本明教授・人文学部）を設置しました。現在、相互に研究上の交流を進めています。



「ISO14001セミナー」開催

5月10日、メディアホールで、ISOの認証機関であるBSIマネジメントシステムジャパン(株)の井上正昭氏を講師に招き、標記セミナーが2回に分けて行われました。1回目は主に副環境責任者とユニット環境担当者を、2回目は最高環境責任者である学長や理事、環境責任者を対象としたトップセミナーで、合わせて100名以上が参加しました。講演では、ISO14001の規格要求事項の解説や他大学の体験談を盛り込み、審査の方法等についてもわかりやすく説明を受け、学長自らも質問するなど、有意義なセミナーとなりました。

石井投手が小児病棟に激励にやって来た!!

5月15日、プロ野球の石井一久投手（東京ヤクルトスワローズ）が附属病院小児病棟に入院中の子供たちを激励しに訪れました。石井投手は、大リーグで活躍中もボランティア活動としてアメリカの病院を訪れ、子供たちを励ましてきました。今回の訪問は、出口隆生助教・附属病院が知人を通じて依頼し実現したものです。子供たちは、テレビの中のプロ野球選手を目の前に、握手をしたり、記念撮影やサインをもらうなど大喜びでした。

「津市げんき大学—三重大学分校」開校記念シンポジウム開催

5月16日、人文学部視聴覚教室にて、標記シンポジウムが開催されました。パネリストに、地元商店街の市民やツヨインジャーらを迎え、「津市を“げんき”にする法則」をテーマに活発な議論が展開されました。学生、教員、市民など約60名の参加者からも多くの意見が飛び出し、三重大学分校（分校長：石阪督規准教授・人文学部）開校記念にふさわしい「げんき」あふれるシンポジウムとなりました。昨年度、市民によって立ち上がった「津市げんき大学」（学長：松田直久津市長）ですが、この分校開校を機に、本学学生の「げんき」な飛躍が期待されています。

第九回全国歴史の道会議・三重県大会



5月17日-18日に標記会議・大会（主催：文化庁と県下関連教育委員会等で構成する大会実行委員会）が熊野市民会館で開催されました。大会では、「熊野街道『伊勢路』の特質—江戸時代の道中記から—」と題した基調講演を塚本明教授・人文学部が行い、熊野街道の東海道・参宮街道などとの違いや、この地域に多様に展開した道の背景とその歴史的価値について、道中記資料などをスライドで紹介しながら解説しました。会場には全国の行政関係者や地元の熊野古道語り部、文化財保存に従事する関係者ら約250名が参加し、見学会や情報交換会などを通して交流を深めました。

市民公開講座「日常生活で普通に出会う脳・神経系の病気」が開催される

5月19日、標記講座(主催:日本神経学会、後援:三重大学 他)が、アスト津ホールで開催されました。葛原茂樹教授(本学神経内科、日本神経学会理事長)の挨拶に続いて、「アルツハイマー病治療の最前線」(田平 武所長・国立長寿医療センター研究所)、「脳卒中とメタボリックシンドローム」(松本昌泰教授・広島大学脳神経内科)、「頭が痛くなるときの頭痛を理解する〜」(内藤 寛講師・本学神経内科)による講演が行われ、約280名の参加者はメモを取りながら熱心に聴講していました。また、講演後の質疑応答も活発に行われ、県民の皆様は日本神経学会・神経内科の活動と本学を知っていただく貴重な場となりました。



大評判! 学生手作り純米吟醸酒



5月21日、生物資源学部の学生が、今年2月から取り組んでいた地酒の完成を学長に報告しました。これは、本学(世話人:久松教授・生物資源学研究科)、寒紅梅酒造、津市観光振興課との産学官で連携したものです。酒造りの工程は、ほとんどが手作業で、学生たちは酒造りのかたわら商品名やラベルまで自ら心を込めて制作しました。品質も上出来で、試飲した学長をはじめ理事からも「飲みやすくておいしい」と大好評でした。製造に携わった学生たち(9名)は、「これぞ地酒中の地酒」と自負しています。今後は対象学生を広げ、「学生が行う体験型観光産業」のモデルに育てていきたいと考えています。

(写真左から)大島淳史さん、豊田学長、児玉翔太郎さん、久松教授

お知らせ&ご報告

国際交流センターから —学長表敬訪問—

○ウェイン州立大学(米国)・・・学部間協定

1. 日時：平成19年4月10日 9:30~10:30
2. 訪問者：医学部学生 5名
3. 同席者：駒田医学系研究科長

○タマサート大学(タイ国)・・・学部間協定

1. 日時：平成19年5月17日 9:15~9:45
2. 訪問者：ソムチャイ東アジア研究所長 他6名
3. 同席者：江原生物資源学研究科准教授

○リヨン政治学院(仏国)・・・学部間協定

1. 日時：平成19年5月28日 9:30~10:30
2. 訪問者：ボレ院長 他1名
3. 同席者：井口人文学部長、藤本・山本人文学部准教授

投稿のお願い

各種事項(大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等)に関するフレッシュなニュースの提供をお待ちしています。小林英雄(kobayashi@mie-u.ac.jp)または井上真理子(mariko-i@ab.mie-u.ac.jp)まで。場合によっては、取材に向きます。《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページ(<http://www.mie-u.ac.jp>)でご覧いただけます。》編集責任者/理事・事務局長 三浦春政

